【樹木の部屋】

イボタノキ（モクセイ科イボタノキ属　Ligustrum obtusifolium）

和名：イボタノキ（疣取木、水蝋樹　別名：ハクレンボク　英名：

ゴマノハグサ目　落葉低木　　原産地：日本

花言葉：禁制　よい友を持つ　　花の色：　白

← 写真-１　イボタノキの樹形

撮影日：2016 年 5 月 21 日
撮影場所：深泥が池畔
（京都市北区）にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　イボタノキの幹

撮影日：2016 年 5 月 21 日
撮影場所：深泥が池畔
（京都市北区）にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　イボタノキの花

撮影日：2016 年 5 月 21 日
撮影場所：深泥が池畔
（京都市北区）にて
撮影者：M　さん

京都市北区の深泥が池畔を散策中に見かけました。名前はよく、耳にしていましたが、実際に目にするのは、たぶん？初めて・・。

北海道～九州の山野の林縁に普通に見られる樹。よく分枝して、高さ 2～4m にもなるそうです。樹皮は灰白色～灰褐色で丸い皮目がある。若枝には細毛があり、短枝が発達する。葉は対生で長楕円形かつ全縁。先は丸み、基部はくさび形。花期は 5～6 月。新枝の先に総状花序をだし、白い小さい花をつける。

丈夫で芽吹く力が強く、細かい枝を密に付けるので生垣や庭の植えつぶしに適した樹木だそうです。塩害や大気汚染にも強く道路の中央分離帯などに多く利用されているようです。

ライラックの台木として用いられるため、気をつけないと、ライラックを購入して栽培しているつもりで、いつの間にか芽吹いたイボタの方を育ててしまい、花色がおかしいと言うことになる場合があるので要注意だとか。

枝葉にイボタロウムシ（イボタカイガラムシ）という虫がつき、オスは体から白いロウ（蝋）を分泌します。秋になると羽化して枝葉にはロウの部分が抜け殻のように残る。このロウは「白ロウ」とよばれ工業用ロウとしてワックスなどに利用されています。

材はきめが細かく楊枝や器具の柄などに用いる。薪炭材。

＜ちょっと一言＞

＊植えつぶし…地面を覆う（隠す）ように草花・低木を詰めて植えること。
背丈が低く葉や枝が密に付いて茂るものが用いられます。

＊この白ロウを熱してイボにつけるとイボがとれる-疣取りの木-が転じてイボタノキという名前が付いたと言われているそうですが、実際の効果はよくわからないようです。

＊属名のLigustrum(リグストルム)はラテン語の「結ぶ」が語源で、イボタノキの一種の枝がものを結ぶのに使われたからだとされているようです。